



日本地球化学会ニュース

No. 227 December 2016

Contents

年会報告	2
2016年度日本地球化学会第63回年会実施報告	
第11回日本地球化学会ショートコース報告書	
学会からのお知らせ	7
役員選挙における電子投票システム導入について	
2017年度学会賞等受賞候補者推薦および第1回鳥居・井上基金助成の募集	

年会報告

● 2016年度日本地球化学会第63回年会実施報告

日本地球化学会年会実行委員会委員長
山本鋼志（名古屋大学大学院環境学研究科）

2016年度日本地球化学会第63回年会は、平成28年9月14日（水）から16日（金）までの3日間、大阪市立大学杉本キャンパス全学共通教育棟において開催された。また年会会期に合わせ、13日（火）午後第11回ショートコースが開催された。

9月13日（火）

第11回日本地球化学会ショートコース

主催：日本地球化学会（世話人：関本俊会員・京都大学）

会場：大阪市立大学理学研究科F棟205室

9月14日（水）～16日（金）

日本地球化学会第63回年会

主催：日本地球化学会

共催：公立大学法人大阪市立大学、日本鉱物科学会、日本化学会、日本分析化学会、日本地質学会、日本質量分析学会

後援：アジレントテクノロジー(株)、Nu Instruments Japan(株)

会場：大阪市立大学全学共通教育棟、田中記念館（総会と受賞講演会）、第1学生ホール（生協北食堂）（懇親会）

年会開催に向けての準備

第63回年会は、近畿地区での開催の方針が決定していた。当初は京都大学での開催を検討したが、会場費が高く、大阪市立大学にて開催することとなった。2014年11月に、山本鋼志、益田晴恵会員、平田岳史会員が大阪市立大学にて第1回実行委員会を開催し、山本が委員長を努めること、益田会員と平田会員が会場並びに懇親会を担当すること、大阪市立大学全学共通教育棟を会場、総会・受賞講演を田中記念館で開催することを決定した。

2015年の総会にて、開催日程が9月14日（水）～16日（金）と決定され、2015年12月11日横浜国立大学において、第62回年会事務局（津野宏会員、癸生川陽子会員）、鈴木勝彦企画幹事、国際文献印刷（佐藤喜則氏）と山本実行委員長が引き継ぎと第63回年会

に向けたタイムスケジュールの調整を行った。同時に年会業務の年会実行委員会（LOC）と評議員会との役割分担の確認を行った。

1. 基盤セッションの運営ならびに特別セッションの公募については、鈴木企画幹事が行う。
2. 講演申し込み後のプログラム編纂はLOCが行う。
3. 学生発表賞の選考は評議員会で行う。ただし、表彰状の作成等については、当日対応できるようにLOCが準備する。
4. 他学会への共催依頼は橘庶務幹事が行う。業務委託先の国際文献、出展企業との連絡はLOCが行う。

開催年度の準備状況

2016年1月に大阪市立大学、京都大学、名古屋大学等から年会運営に協力頂く会員を募り、大阪市立大学の中村英人会員、近畿大学の中口讓会員、京都大学の伊藤正一会員、名古屋大学の日高洋会員・杉谷健一郎会員・三村耕一会員・南雅代会員・浅原良浩会員を加えた11名の実行委員会を組織した。以降、鈴木企画幹事と密に連絡をとりながら、年会までの運営を行った。

- 3月25日 鈴木企画幹事より評議員員に対して基盤セッション担当者の公募
- 4月22日 第2回LOC会議を大阪市立大学において開催（山本、益田会員、平田会員、中口会員、中村会員）、口頭発表・ポスター発表会場の他、休憩室・会議室等の配置を決定
- 5月6日 鈴木企画幹事より、特別セッションの公募（締め切りは5月31日）
- 5月12日 前年度の出展企業に対し、企業展示・ランチョンセミナーの案内を送付
- 5月16日 第63回年会HP公開を開始（LOCよりMLに配信）
- 6月1日 鈴木企画幹事より基盤セッション（13）、特別セッション（1）の構成を決定
- 6月13日 講演申込・要旨受付開始（LOCよりMLに配信）
- 7月14日 講演申込締め切り（1週間前より複数回案内を配信）17時メ切を1時間延長
- 7月15日 各筆頭セッションコンピーナーに申込情報を送り、プログラム作成依頼（20日締切）

- 7月20日 発表要旨の入稿
- 7月22日 第3回LOC会議を大阪市立大学において開催（山本，益田会員，平田会員），発表件数に合わせて口頭発表会場を4会場とすること，ポスター・企業展示会場を1教室にまとめることを決定
- 8月6日 プログラム速報版を年会HPで公開（LOCよりMLに配信）
- 8月19日 参加事前申込締め切り（1週間前より複数回，案内を配信）17時メ切を1時間延長
- 9月1日 年会プログラム確定版と講演要旨を年会HPで公開

発表ルールの確認

各セッションの招待講演や基調講演の件数，1人当たりの発表件数等は，LOCで独自に決定するのではなく，学会側で基本ルールを決定して頂いた。鈴木企画幹事を中心に，石橋前企画幹事も含めた議論の結果，以下のルールが提示され，第63回年会ではそれに従った。

1. 学会基盤セッションは，基調講演・招待講演合わせて最大2件とする。
2. 特別セッションは，基調講演・招待講演の数に制限を設けない。
3. 基調講演者は学会員のため，参加費・懇親会費の会員価格を負担する。
4. 非学会員である招待講演者は，参加費は無料，懇親会費は会員価格とする。
5. 共催学会員で通常講演の場合は，参加費，懇親会費ともに会員価格とする。
6. 会員の発表件数は口頭発表1件，ポスター発表2件までとする。ただし，基調講演・招待講演は数に含めない。

要旨配布方法の変更

学術雑誌の電子化が進む現在では，要旨集も電子化する学会が増えてきている。第63回年会では，アジレントテクノロジー(株)から300個のUSBスティックの寄付を受けられたこともあり，参加者への要旨の

配布をこれまでの印刷体要旨集からUSBスティックへと変更した。ただし，参加申し込みの際，印刷体要旨集購入の希望を取り，希望者には2,000円で印刷体要旨集を販売した。この変更に対してアンケートを募ったところ，会員から寄せられた意見を集約すると以下ようになる。

1. 要旨の配布はUSBで特に問題は無い。
2. 年会ホームページでもプログラムや要旨を公開しているため，USBでの配布も止めて，参加者がホームページからダウンロードすればよい。
3. 会場で，当日プログラム（印刷版）を配布するとより便利である。
4. 会場でのメモ取りなど，印刷体の方が便利である。

本年はUSBスティックの寄付を得られたが，無償でUSBの寄付が毎年受けられるとは限らない。要旨集の発行形態は，最終的には実施LOCの判断によるが，評議員会で議論を行いLOCに対して学会としての方向性を示すことは必要と考えられる。

会場

本年は，6月にゴールドシュミット会議2016横浜が開催された影響から，例年よりも発表件数が100件ほど少なく，口頭発表とポスター発表を合わせて，220件であった。そのため，口頭発表の会場を例年の5会場から4会場へとし，初日午前は2会場のみでの発表となった。本年はUSBスティックでの要旨の配布であったため，コンピューター電源等の苦情も想定されたが，苦情は一件のみであった。また，その方も講義室のコンセントを使用されており，大きな問題とはならなかった。

本年はポスター発表の数も少なかったため，ポスター発表と企業展示を一つの教室にまとめた。この教室は実験室仕様であり，コンセントの個数も多く，各企業展示ブースに電源を独立して提供が出来た。さらに，ポスターを毎日貼り替えることで，ポスター・企業展示会場に，参加者が連日訪れてもらうようにした。出展企業にアンケートを行ったところ，「ポスター会場と同じスペースのため，多くの訪問者があった」と好評であった。

表1 第63回年会の参加者数一覧.

	学会員	共催 学会員	一般 (会員外)	学生会員	一般学生 (会員外)	名誉会員	出展企業	学部生	合計
事前登録	122	6	16	47	29	2	27	0	249
当日登録	27	0	7	8	10	0	6	4	62
合計	149	6	23	55	39	2	33	4	311

注：事前登録の一般（会員外）には、招待講演者7名を含む。

年会会期中の様子

今年度の年会参加者は総計311名を数えた。初日の受付は、午前中に2つのセッションのみであったためか、参加者の到着が分散し、比較的スムーズに受付ができた。ただし、ヘルプデスクでは一部の方をお待たせすることになり、初日のみヘルプデスク窓口を2カ所にすべきであったかもしれない。

本年度も会期中に関連イベントが複数企画された。例年通り関連企業の展示会（12社）を開催したが、ポスター会場と併設したこともあり、参加者には気楽に立ち寄っていただけたようである。企業展示に合わせて、ランチョンセミナーを正式に募集したところ、サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社、三洋貿易株式会社、Nu Instruments Japan株式会社の応募があり、3日とも昼休みにランチョンセミナーが開催できた。2日目に日韓セミナーが延長し、参加者数が定員を満たさず残念であったが、参加者に大いに貢献したと思われる。この場を借りてお礼申し上げる。また、年会会期前日には「第11回日本地球化学会ショートコース」が理学研究科棟にて開催された。

第1日目

会期初日の午前には2件の基盤セッション、午後には5件の基盤セッションとポスター発表が開催された。昼休みには、サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社によるランチョンセミナーが開催された。

すべてのセッションが終了した後、18時より夜間集会在開催された。夜間集会上では5件の課題の提出、80名ほどの参加があり活発な議論が行われた。益田晴恵会員（大阪市大）から「地球化学会の社会貢献（防災対応、予知）に対する対応について」についての話題提供があった。平田岳史副会長（東京大）からは、「地球化学会の法人化に関して」と題して、法人化のメリット・デメリットが紹介され、多くの議論が行われた。また、6月に開催されたゴールドシュミッ

ト会議2016横浜の報告が益田晴恵組織委員長（大阪市大）からなされた。さらに、高橋嘉夫会員、寺田健太郎会員、角皆潤会員から「大型研究の現状と将来の取り組みに関して」、鍵GJ編集委員長から「GJの現状と今後に向けた取り組み」についての報告、話題提供がなされた。短い時間の中ではあったが、質疑応答や情報交換が活発に行われ、有意義な夜間集会上となった。なお、本年も夜間集会上の会場で有償の飲料提供を行った。

第2日目

会期2日目には、1件の特別セッション（日韓セッション）と3件の基盤セッションが口頭発表4会場とポスター会場で行われた。昼休み中には、三洋貿易株式会社によるランチョンセミナーが開催された。

午後は、ポスターセッション後の15時より、総会、受賞記念講演会をG会場（田中記念館）で開催した。総会では、通常の議事に加えて、今回お招きしたYu韓国地質学会長、Yun韓国地質学会地球化学部会長にご挨拶を頂いた。さらに日本地球化学会へ多額の寄付を頂いた井上源喜会員に、塚本尚義会長より感謝状の贈呈が行われた。引き続き、本年度の各賞の授賞式が行われた。本年度の受賞者は、日本地球化学会賞が石橋純一郎会員（九州大）、日本地球化学会奨励賞が柏原輝彦会員（海洋研究開発機構）、金子雅紀会員（産業技術総合研究所）であった（http://www.geochem.jp/prize/prize_2.html）。総会后、受賞記念講演会が行われ多くの参加者が集まった。ただし、金子雅紀会員は航海調査中で不参加であったため、次年度の年会にて記念講演会を行うこととなった。

受賞講演会終了後の18時00分から、学内の第1学生ホール（生協北食堂）において懇親会を開催した。懇親会の参加者は140名であり盛況な会となった。冒頭、年会実行委員長である山本鋼志より開会の宣言があり、塚本尚義会長の挨拶に続いて、大阪市立大学櫻木弘之副学長が開催校を代表して挨拶を行った。小嶋

稔名誉会員に乾杯の音頭をとっていただき、懇談となった。本年の懇親会では、30~40 kgの近大マグロの提供を予定したが、60 kgのマグロが釣り上がり事務局は食べきれぬのかを心配した。しかし、漬け丼、寿司、刺身、フライがアツという間に完食され、事務局の心配は全く不要であった。次期年会は東京工業大学で開催されるが、実行委員長である吉田尚弘会員（東工大）から挨拶をいただき、無事閉会となった。

第3日目

年会最終日は6件の基盤セッションが4会場とポスター会場において開催された。昼休み中には、Nu Instruments Japan株式会社によるランチョンセミナーが開催された。

最後の講演が終了した後に、A会場にて閉会式が、鈴木勝彦企画幹事（海洋研究開発機構）の進行で行われた。学生発表賞には、ポスター発表賞として齋藤陽介会員（学習院大）と青山慎之介会員（東京工業大）の2名が、口頭発表賞として栗栖美菜子会員（東京大）、藤本千賀子会員（東京大）、古賀俊貴会員（九州大）、坂田昂平会員（広島大学）の4名、計6名が選出された。受賞者には塚本会長から賞状と記念品が授与された。閉会式を含め、各イベントともに盛況であり、盛会のうちに年会を終えることができた。

総括

本年は、6月にゴールドシュミット会議2016横浜が開催され、多くの会員がこの会議に参加した。そのため発表件数がどれほど集まるのか心配したが、220件の発表申し込みがあり、例年に比べて100件ほどの減少に留まることが出来た。会員各位に感謝申したい。

特別セッションは、5月6日から5月31日まで一般公募を行ったが応募が無かった。十分な広報が出来たか、公募期間は適切であったか、次年度以降の検討課題である。一方、鈴木企画幹事、川幡副会長が中心となり、特別セッションとして「日韓シンポジウム」を企画頂いた。Yu韓国地質学会副会長、Yun地球化学部会長、Lee博士の発表に、日本側も5名の学会員の発表を加え盛況のうちに終わることが出来た。

本年は印刷体要旨集の参加者全員への配布を取りやめたことにより、参加費を例年よりも正会員・学生会員共に2,000円値下げした。値下げ幅が大きく単年度決算が赤字になることが想定されたが、企業展示の件

数が増えたこと、ポスターボードを博物館より無償で借りられたこと、アルバイトの人数を最小限にとどめたことにより、黒字決算となった。これにより、次年度事務局への準備金の送付ならびに学会への準備金の返還が可能となった。アルバイトの人数を減らしたことにより、コンビーナーの皆さんに照明係を兼ねて頂いた。ご協力有り難うございました。

懇親会では、近大マグロを提供したため、例年よりも1,000円の値上げをした。予定よりも大きなマグロが釣り上がり赤字を心配したが、結果的に懇親会会計もわずかな黒字となった。年会会計に残額を組み入れた。

例年は年会開催に合わせてJ-Stageへの要旨の掲載を行ってきたが、本年は年会終了後の掲載が評議員会により決定され、事務局ならびに国際文献印刷の負担が軽減されると共に、経費も削減できた。次年度以降も年会終了後の搭載が望まれる。

謝辞

年会開催に当たり、公立大学法人大阪市立大学、日本鉱物科学会、日本化学会、日本分析化学会、日本地質学会、日本質量分析学会には共催を頂きました。また、アジレントテクノロジー株式会社からはUSBスティック300個の、Nu Instruments Japan株式会社からはネームホルダー400個余のご寄付を頂きました。年会運営にご協力いただきました塚本会長をはじめ、学会評議員の皆様、セッション構成にご尽力いただいたコンビーナーの皆様、心よりお礼申し上げます。企業展示をしていただいた12社のご協力により、年会の財政基盤は安定したといえます。この場を借りて、各社のご芳名を紹介するとともに、改めてお礼申し上げます。来年度以降も年会へのご協力をよろしくお願いいたします。

フリッチュジャパン株式会社

SIサイエンス株式会社

株式会社マイクロサポート

ジャスコインタナショナル株式会社

安井器械株式会社

サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)

三洋貿易株式会社

紀本電子工業(株)

株式会社エス・ティ・ジャパン

バイテックグローバルエレクトロニクス株式会社

Nu Instruments Japan株式会社

イー・エス・アイ・ジャパン株式会社
(以上、12社)

最後になりますが、大阪市立大学理学部・理学研究科の学生の皆さんには、会場アルバイトとして会場設営、会期中の受付・会場担当、そして会場の現状復帰まで献身的に活躍して頂きました。心よりお礼を申し上げます。また、年会は参加者があってこそのものであります。日本地球化学会第63回年会にご参加いただいた皆様には心よりのお礼を申し上げます。ぜひ、来年度も東京工業大学での第64回年会にお集まりいただけますよう、お願い申し上げます。

(第63回年会実行委員長・山本鋼志)

●第11回 日本地球化学会ショートコース報告書

2016年9月13日(火)に大阪市立大学理学研究科棟第4講義室(F205)にて第11回ショートコースを開催した。受講者は、日本地球化学会会員14名(内ショートコースの世話人5名)、非会員5名、講師5名の合計24名であり、世話人と講師以外の参加者のほとんど(13名)が、学部4年生から博士後期課程に在籍する学生であった。

今年ショートコースの内容はプログラム(下記参照)にあるが、地球化学における研究分野別(分析対象試料及び分析手法も異なる)に、4名の先生方から各分野の背景とご自身の最新の研究内容を丁寧にご紹介頂いた。また毎年恒例となっている基礎・教養に関する講演では、10年前の第1回ショートコースの時と同じく神戸大名誉教授の松田先生にプレゼンテーションの重要性について講演いただいた。各講演ともに約1時間(内、質疑応答に10分)を充て、概ね時間通り進行したが、個人的には、質疑の時間がもう少し長い方が、議論が盛り上がり、より有意義なショートコースになるのではと期待している。

本年も受講者にアンケートを実施しており、その結果、学生会員の参加費が無料であることがよい点である旨の意見が多くあり、今後も継続が望まれる。また海外留学に関する講演を望む意見も複数あり、来年度以降に反映できればと考えている。講演時に聞くことが出来なかった質問を、アンケートを通じて、講師に伝え、その後メール等で連絡するという事も見られた。

会場準備、設営及びHPでのお知らせ等、大阪市立大学の益田晴恵先生、中村英人先生ほか日本地球化学会年会LOCの方々にお世話になった。またAgilent

Technology社から参加者全員にトートバッグを寄贈いただいた。ここに感謝の意を表します。

尚、今年講師の先生方の講演要旨を、受講者にメールで送付したが、来年度以降はショートコースHPに載せてはどうかとの意見を年会LOCの山本先生より頂いており、来年度以降はそのようにできればと考えている。

日本地球化学会ショートコースは、2006年の第1回から2015年の第10回まで、平田岳史先生(東京大学)のご尽力により開催されてきた。本年より10名の世話人に引き継がれ、今年には服部先生(東工大)にお力添えを頂き、筆者が中心となりつつ、他の世話人の意見等も募り、講師の先生方の選定、ショートコースの準備等を行った。今年、参加者が増えることを期待して、開始時間を昼過ぎからにした以外は、これまでの10回のやり方を踏襲して行ったつもりである。結果的に参加者の増加は見られなかったが、今回の反省等は、次回の主世話人に引き継ぎ、より充実したショートコースが開催されるように、来年度以降も協力できればと考えている。

以下にプログラムと会計報告を記す。

1) プログラム

第11回日本地球化学会ショートコース

日時: 2016年9月13日(火) 正午受付開始-18時過ぎ

場所: 日本地球化学会2016年年会会場(大阪市立大学理学研究科棟第4講義室(F205))

12:55- はじめに

13:00- 小木曾 哲(京都大学)「マグマ生成と地球化学: 融解相平衡の世界」

14:00- 尾上 哲治(熊本大学)「遠洋性堆積岩に記録された地球外物質の付加と環境変動」

15:00- 休憩

15:10- 癸生川 陽子(横浜国立大学)「隕石有機物の形成と進化」

16:10- 松四 雄騎(京都大学)「鉱物中の宇宙線生成核種を用いた地球表層プロセスの研究: 原理の解説・分析の実際・応用例の紹介」

17:10- 松田 卓也(神戸大学・名誉教授)「プレゼンテーションはあなたの未来を決める」

2) 会計報告

収入は参加費のみである。本ショートコースの参加費は、日本地球化学会会員・日本地球化学会学生会員は無料、非会員は2,000円とした。支出は、講師料（一人あたり10,000円、4名分）であった。講師料は尾上氏、癸生川氏、松四氏、松田氏の4名に支払った。尚、小木曾氏は日本地球化学会評議員であるため、講師料の支払い非対象者である（例年通り）。

会計収支表を以下に示す。

収入			支出		
人数	単価 (円)	小計 (円)	人数	単価 (円)	小計 (円)
5	2,000	10,000	4	10,000	40,000
日本地球化学会からの補助		30,000			
合計		40,000	合計		40,000

以上です。ご協力ありがとうございました。

(京都大学原子炉実験所 関本 俊)

学会からのお知らせ

●役員選挙における電子投票システム導入について

来年の役員選挙（2018-2019年度役員選挙）から、電子投票システムを導入することとなりました。電子投票システムの導入については評議員会で議論を行い、1) 投票の簡便化により投票率の増加が見込まれる、2) 開票・集計作業の負担が軽減される、3) 投票用紙の郵送に係る出費を抑えられる、といった利点を踏まえ、2015年度第3回評議員会において承認されました。選挙の際には、学会に登録されたメールアドレスに投票用のパスワードが送られることとなりますので、会員の皆様におかれましては、メールアドレスの登録状況をご確認いただけますようお願い申し上げます。登録状況は、学会ウェブサイトの会員専用ページ (<https://www.bunken.org/geochem/mypage/logins/login>) からご確認いただけます。会員IDは、学会誌をお届けする封筒の宛名欄に記載されております。郵送での投票をご希望の方につきましては、事前にご連絡いただければ対応いたします。投票方法の詳細につきましては、来年6月頃にご案内する予定です。本件に関するお問い合わせは、総務幹事・山岡香子 (soumu@geochem.jp) までお願いいたします。

(総務幹事 山岡香子)

●2017年度学会賞等受賞候補者推薦および第1回鳥居・井上基金助成の募集

2016年度学会賞等受賞候補者の推薦および第1回鳥居・井上基金助成を募集いたします。締切は、2017年1月31日となっております。書類の受付は「電子メール」です。ご注意下さい。

(1) 2017年度「柴田賞・学会賞・奨励賞・功労賞」受賞候補者推薦の募集

日本地球化学会規定により、柴田賞・学会賞・奨励賞・功労賞受賞候補者の推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照の上、会員各位のご関係で適当と思われる受賞候補者を、自薦他薦を問わずご推薦下さいますようお願いいたします。

候補者の資格：

(柴田賞) 地球化学の発展に関し、学術上顕著な功績のあった者。

(学会賞) 地球化学の分野で特に優秀な業績を取めた本会会員。

(奨励賞) 地球化学の進歩に寄与するすぐれた研究をなし、なお将来の発展を期待しうる本会会員。受賞者の年齢は、2017年4月1日において満35歳未満である（誕生日が1982年4月2日以降である）ことを要する。

(功労賞) 我が国の地球化学あるいは本会の発展に関し寄与のあった者、または団体。

募集の方法：本会会員の推薦による。

推薦の方法：学会ウェブサイトからダウンロードした推薦書に記載し、2017年1月31日までに「電子メール」で下記に提出する。

<http://www.geochem.jp/prize/index.html>

提出先：

橘 省吾（庶務幹事）

e-mail: affairs@geochem.jp

書類を受領しましたら、3日以内にメールでご連絡を差し上げます。万一、受領の連絡がない場合はお知らせ下さい。

選考は「学会賞等受賞者選考委員会」が行い、評議員会にて受賞が決定次第、推薦者にご連絡差し上げます。授賞式は年会時の総会後に行い、受賞者には受賞記念講演をしていただきます。

この件についてのお問い合わせは、本会庶務幹事・橘 省吾までお願いします。

(2) 2017年度第1回鳥居・井上基金助成の募集

2017年度第1回鳥居・井上基金助成の応募の締め切りは、2017年1月31日となります。本学会ウェブサイトに応募要項がありますので、ご参照の上、応募書類を提出して下さい。なお、今回の助成の対象は、若手会員が会員相互および関係学術領域研究者と協力ネットワークを形成したりコミュニケーションを促進したりするための集会や活動で、2017年4月から2018年3月までの1年間に実施されるものとなりますので、ご注意下さい。

<http://www.geochem.jp/prize/torii.html>

申請手続：

応募者は、学会ウェブサイトからダウンロードした申請書を、所定の期日までに「電子メールで」下記に提出して下さい（今回より申請書の様式が改訂されました）。参考となる資料（集会や活動の案内・概要等）を添付してください。

提出先：

橘 省吾（庶務幹事）

e-mail: affairs@geochem.jp

書類を受領しましたら、3日以内にメールでご連絡を差し上げます。万一、受領の連絡がない場合はお知らせ下さい。

選考は「鳥居・井上基金選考委員会」が行い、採択者には3月末を目処に、電子メールで採択通知を送付いたします。不採択者にご連絡は差し上げておりませんので、ご了承下さい。

この件についてのお問い合わせは、本会庶務幹事・橘 省吾までお願いします。

（庶務幹事・橘 省吾）

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしく願いいたします。次号の発行は2017年3月頃を予定しています。ニュース原稿は2月中旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会広報幹事・ニュース担当）

三村 耕一

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻

Tel: 052-789-3030; Fax: 052-789-2530

E-mail: news-hp@geochem.jp

平野 直人

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

東北大学東北アジア研究センター

Tel: 022-795-3618; Fax: 022-795-3618

E-mail: news-hp@geochem.jp